

日本福祉文化学会 2011年度第2回理事会議事録

- ・日 時 2011年9月17日(土) 午前9時から11時
- ・会 場 フォレスト仙台 2階第9会議室

1. 開 会

《定足数確認》 理事総数21名 出席理事8名 委任状8名 規約第10条第2項に基づき理事会成立。なお、陪席者として評議員浮田氏、松原理事代理として次期評議員佐々木氏、安倍事務局長が出席。

2. 議長選出

議長に会長を選出。

3. 議事録の確認

議事録署名人として五十嵐真一および磯部幸子を選出する。

4. 協議事項

(1) 2010年度収支決算書について

資料2に基づき安倍事務局長より説明。前回(7月2日)の理事会で条件付きで承認されていたもので、繰越金が確定したことについて、それらの経緯を報告した。

(2) 2011年度収支予算(案)について

資料4に基づき安倍事務局長より説明。「大きく変わったところとして、前年度繰越金が2,455,198円となった。このことの最大の理由としては、予算が厳しいと判断して皆さんにかなり経費を抑えることをお願いしてきたことが非常に大きかった。また、2,3月には会費未納者に督促を行い一定の納入があったことも挙げられる。支出の部では、刊行費は実態に沿って30万円増。委員会および地方ブロック活動費を若干増。印刷費は新役員体制となるため、学会パンフレット作成に10万円を計上。また、前年度までは役員の皆さんに旅費など極力工夫をしていただいていたが、必要な金額50万円を計上した。また、予備費に70万円強を計上しているのは、今年度から新規スタートする震災支援委員会活動の内容が明確になった段階で、この予備費から30万円程度の支出を考えているためである。」などの説明があった。結果、満場一致で承認。

(3) 第5期評議員会・理事会体制について

資料5に基づき河東田会長から報告があった。

① 第5期評議員選挙結果報告

有権者数329名 投票者数91名 投票率27.7% 有効投票数608票

② 第5期理事・評議員役割分担表を提案

提案通り承認された。以下、新役員体制(敬称略)

役職名	氏 名	
会長	河東田博	
副会長	石田易司	島田治子
地方ブロック理事	北海道	越前谷賢一
	東北	大澤澄男(理事会推薦)
	北陸	石井パークマン麻子(理事会推薦)
	関東	梅津迪子(理事会推薦)
	中部東海	平田厚
	関西	岡村ヒロ子
	中国四国	和泉とみ代・川田美由紀

	九州	雨宮洋子
	沖縄	該当者なし
研究委員会	馬場清	國光登志子
企画委員会	多田千尋	マーレー寛子
広報委員会	稲田泰紀（理事会推薦）	
研究誌編集委員会	磯部幸子	
実践報告集編集委員会	遠藤美貴	
総務委員会	安倍大輔	木村たき子
震災支援委員会	渡邊豊	

事務局長	磯部幸子
事務局次長	阿比留久美

評議員	沈潔 厚美薫 天野勤 池良弘 浮田千枝子 加登田恵子 小沼肇 佐々木隆夫
-----	---

監事	齋藤孝夫 前嶋 元
----	-----------

顧問	蘭田 碩哉
----	-------

なお、会長からは次のような説明があった。「この間事務局が新潟から東京に移り、予算執行などに皆さんにご迷惑をおかけしたこと、現事務局長安倍氏から、本人の都合により辞退の希望が出されたため、事務局体制を変えることになった。さらに、理事会推薦が複数あるのは、評議員の方をお願いしたが、いろいろな事情で理事（役割を持つ）についてお断りがあり、このような状況になった。研究誌については現在編集に入っている21号の完成まで（2012.3）磯部氏が事務局長を兼務して行う。沖縄に理事を選出できなかったのは地元との話し合いでこのようになった。また、中国・四国ブロックに2名の担当理事を置いたのは、地元の要請があったことや現在活発に行われているブロック活動を継続させ、充実させるためである。」

(4) (5) 2012年度事業計画書（案）および収支予算書（案）について

資料6および資料7に沿って磯部新事務局長から説明。

事業計画書（案）については磯部新事務局長の説明の後、河東田会長から特に、重点事業の具体的な取り組みについて次のような提案がなされた。「震災支援委員会委員長に渡邊氏、将来構想委員会委員長に島田氏、国際交流委員会委員長にマーレー氏をそれぞれおいて具体的に方針を検討してほしい。さらに、新・福祉文化シリーズが第5巻まで刊行されたので、さまざまな催しに活用してほしいこと。また、引き続き石田氏に編集委員会委員長を引き受けていただき、今後の出版活動の方針を検討するようお願いしたい。」結果、2012年度事業計画は承認された。

実際には、2011年度からこのことは検討を進めて2012年3月の理事会に方向性を示すこととなった。

収支予算書（案）に関しては、資料7の訂正版に基づいて説明がなされた。特に、現場セミナーおよび委員会活動やブロック活動などを中心に予算を増額したこと。国際交流委員会の予算について沈前副会長より「予算を使用する際に具体的に、制限はあるのか。」との質問があった。協議の結果、予算がわずかなため（積立金額14万円）、旅費は含まずとしたほうがよいこと、事務局で、国際交流費を積立金として一般会計とは別にしたこと、どのような範囲で使用

するのかなどこれまでの経緯を含めて内規を作る必要性が指摘され、国際交流委員会で検討することになった。

この結果は次回（2012年3月理事会）に提示することになった。

(6) 名誉会長・名誉会員規則の変更について

資料8-2について河東田会長より提案説明がなされた。

「この規則は前々執行部（京都大会）において提案可決されたものであるが、一番ヶ瀬前会長から辞退の手紙をいただいている。（当日一番ヶ瀬前会長からの手紙が読み上げられた。）もともと、創設者である一番ヶ瀬前会長を念頭において作られた規則であり、今後それに該当する人が想定されることも考えられないため、名誉会長に関することをすべて削除したい。」結果、満場一致で承認された。この結果、規則の名称も「名誉会員規則」と変更されることになった。沈氏から「名誉会員にふさわしい会員はおられるのでできるだけ推薦していったらどうか。」との意見があった。規則によると、会員が理事会に推薦の意見を挙げるができるようになっていたので（推薦会員数は限定されていない）ふさわしい会員を提案してほしいということになった。また、総務委員会および事務局において推薦書様式などを検討することになった。

(7) 日本福祉文化学会「震災支援」について

資料9-1および資料9-2に沿って石田副会長より次の提案があった。

「実際には現地の団体も忙しくかつ流動的で調整が難しいことがこれまでの体験で感じられる。また、現地の震災ボランティアセンター（社協中心）がしっかりと機能している地域では、一般のボランティアの参加ができにくいなど社協一色になっているところもある。さらに、先般の台風による豪雨被害で南紀地方が大変な災害地域となっているが、さっそく関西では震災ボランティアセンターが立ち上がり動いている。が、社協一色という感じもある。今後関西ブロックではこのような震災支援の現状を研究の対象にしていくのか検討していきたい。」

次に会長からは、「現在日本福祉文化学会への寄付金は100万円を超えているが、そのうちの80万円強がオペラ歌手の村山岳氏からのチャリティコンサートによる寄付金である。」との補足がなされた。さらに、「これまで石田副会長が道筋をつけてくださった部分を新しくできる震災支援委員会の渡邊理事に学会方針を理解してもらうため、二人で話し合ってもらいたい。」と意見が出された。

なお、資料9-3に沿って、福祉文化学会そして東京おもちゃ美術館・グットトイ委員会などが中心になって4月以降被災地に支援活動を行っている。主に、福祉文化セット（おもちゃを中心に）を持参しながら（福祉施設含む）一定の活動を継続している旨報告された。

(8) 2012年度岡山大会について

佐々木評議員より、資料10に基づいて現状の進捗状況の報告があった。期日は2012年10月6、7日。岡山大会（倉敷市）のテーマは、「倉敷発、福祉の思想と文化 ―実践と研究のこたえ―」。

(9) 2013年度全国大会について

会長より口頭で、東京またはその周辺で行いたい旨話された。

(10) 2011年度ブロック事業計画および助成費について

五十嵐氏からは新潟での企画について前回理事会で2011年に実施する企画をお知らせしたが、その後準備の過程で内容が変更になり、2012年に改めて実施することになった。したがって2011年度の助成申請は取り下げたい。次に、関西ブロックからは、今回の仙台大会の準備のほか、研究会を継続して行っている。毎回10名から15名の参加がある。なお、大阪大会から急ぎよ仙台大会に変更したことで、皆さんにはいろいろご不便や不行き届きを感じさせたことをお詫びしたい。加えて、「研究と実践の融合」について今大会ではプログラム化できなかったため、研究分科会の司会者よりその旨つたえてほしいことが石田氏から話された。

ただ、急きよ大会開催場所を変更したにも関わらず、思いのほか参加者が多く70名余の参加となった。また、18日のオプションコースにも多くの参加者が応募していることが報告された。

5. 報告事項 (委員会報告・ブロック報告とりまぜて)

- (1) 研究委員会は小坂氏より、新・福祉文化シリーズ第5巻「福祉文化の潮流」を刊行したこと、また、この学会としてどういう研究仮説を持って研究を進めるのか、学会員にも聞かれたが、自分としてははっきり理解することができないまま今日に至ってしまった。
- (2) 企画委員会についてはマーレー氏から高齢者アクティビティ開発センターと学会との共催 (立教大学社会福祉研究所も共催) で、10月に「アクティビティ実践フォーラム」を立教大学で行うこと (パンフレット参照)、ぜひ参加してほしい旨案内があった。また、企画委員会としては「研究と実践の融合」を具体的に各大会の中などで追究し、一定の成果をつかんできたと感じている。
- (3) 研究誌編集委員会は、磯部から2011年度の状況について報告があった。今年度は投稿数が8編と少なかった。今後編集委員会を経て査読などで皆さんにご協力いただきたいこと。また、特集テーマは「災害と福祉文化 (仮称)」を現在検討中である。
- (4) 新潟の五十嵐氏からはこれまで新潟でいろいろ現場セミナーや企画事業を行ってきたが、一つの地域で実施することに限界を感じてきたこと、などの発言があった。
- (5) 中国・四国ブロックは松原氏に代わって佐々木氏から2011年1月23日のブロック事業を行ったことが報告された。2012年度のブロックセミナーは山口での開催を企画中である。
- (6) 国際交流委員会の沈氏からは「ずっと東アジア地域に日本の福祉文化学会の活動を発信することを考えてきた。次のマーレーさんには委員会活動を組織としてどう動かしていくか難しいと思うが追求して行ってほしい。メンバーだけの楽しみではなく他国にも発信することが重要であると思っている。また、国際セミナーの復活を願っています。」との発言があった。

《事務局報告》

現在会員数 413名 実質会費を納入している会員 311名 団体8団体

以上

2011年度 日本福祉文化学会第2回議事録に間違いがないことを認めます。

2012年 1月13日

議事録署名人

五十嵐 真



議事録署名人

磯部 亨

